

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297100253
法人名	社会福祉法人 県民厚生会
事業所名	グループホームきらら浜松 (北ホーム)
所在地	静岡県浜松市中央区楊子町218
自己評価作成日	令和7年1月15日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/ZZ/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&lievosvoCd=2297100253-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和7年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度は、入居者様一人ひとりの健康管理について居室担当者が中心となり、薬の変更があった方などは24時間シートを活用して心身の状況把握に努めるなど、入院によるADLの低下など起こさないように努めた他、歩行訓練やエアロバイクなど出来るだけ体力の低下を防ぐようユニットの職員が丸で取り組みました。5S活動の中で、利用者様が自ら塗り絵を選んだり、掃除用具を片付けられるよう自立支援に繋げられるような配置作りも行いました。職員と利用者様が協力し合いながら、取り組めるよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街に溶け込み佇んでいる一方で、全居室から中庭へ出られる開放的な設計となっています。季節の花々や緑が植わる環境の中で「笑顔あふれる暮らしの実現」を理念とし、ここは我が家という思いを大切にしながら、温かみのある生活空間とケアサービスを提供しています。例えば、コーラス経験者にはレクリエーションで披露する場を設け、歩行訓練の一環としてエアロバイクを導入したり、在宅の頃の習慣のままに塗り絵や数独、コーヒーに親しみ、ジャズを聴きながらウイスキーを愉しむなど、利用者一人ひとりの趣味や嗜好を通じて「これまでの生活の継続」が実現しています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は誰もが見える所に掲示されています。その意義を職員全員で共有し、居室担当者が中心となり、入居者様一人ひとりが笑顔で過ごせるホッとする我が家をめざしています。	各ユニットにおける掲示と職員への配付、会議での唱和を通して、理念と行動規範の浸透を図っています。一方で、介護度に比例して意思表示が難しくなった利用者が増え、何を望んでいるのか把握が困難になっているため、職員が悩む場面も増えています	理念を実直に推進しようとする職員にとって悩ましい状況があるようです。相手が望むことがわからない場合は「職員がされたら嬉しいことをまずはおこなってみる」ことも一考です
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度地域貢献活動委員会で開催するイベントに出来るだけ入居者様も参加する機会を設けました。また、地域の一員として敬老会やクリスマスの際に子育て支援や近隣のこども園と交流を行いました。	ボランティアのほか介護体験として学生を受け入れ、園児との交流もあり、地域から野菜や果物の差し入れがあります。また届いた夏みかんは、「利用者が皮むきしてシロップ漬けを作り、ヨーグルトやパンにのせて夏の味覚を堪能する」といった更なる収穫も見られます	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法の発信は出来ていませんが、きらら祭りの開催や、地域貢献活動を通じて地域の方々へ貢献する姿勢を常に持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に開催しています。入居者様の普段の様子や行事、事業所として取り組んでいる業務改善などを報告するとともに、事故やヒヤリハットの報告も行い、会議でいただいた意見を活かせるようにしています。	議場で配付のレジュメには写真を取り入れ、利用者の様子を伝える工夫があります。事業所では事故やヒヤリハットの報告をおこなうことで業務の改善に役立てようとの考えを持ち、また出席の民生委員は看護師職なことから、衛生分野の貴重な助言を得ています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方の運営推進委員会の参加が見送られることが多いため、日頃の疑問や介護保険のことなど、分からない事は随時区役所の担当者様に連絡してアドバイスして頂いています。特に本年度は介護保険の改正により、加算に関する事など質問させていただく機会も多く、例年以上に役所の担当者様との連絡も密に取らせていただきました。	4月の報酬改定では加算に係る助言を行政から受け、丁寧で親身な対応を以って制度の理解を深めるに至っています。また、浜松市介護サービス事業者連絡協議会主催の研修会では業務効率化に向けた具体的な取組を学び、現場の改善に活かしています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置の他、勉強会や資料配布・動画視聴により身体拘束が及ぼす影響を学んでいます。業務の中で、拘束だと感じたことは上司に報告・相談し、委員会にも報告しています。玄関の施錠は日中に時間を決めて開錠しています。	身体拘束をおこなわないケアを実践し、これは拘束ではないかとする事例があれば職員から報告を受ける体制を整えています。報告があった際には身体拘束廃止委員会にて検討し、必要に応じて家族を交えたカンファレンスを実施する段取りとしています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については委員会設置の他、何度も勉強や話し合いの場を持ち、動画視聴も行うなど、不適切を注意しあえる環境が大事であることを確認しあったり、虐待の芽チェックリストを毎月実施し、職員全員虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めて		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の資料を配布や動画視聴をするなどして、成年後見制度や日常生活自立支援事業について詳しく知る機会を持てるようにしています。詳しく知りたい場合は、DVDの貸し出しもしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行い、少しでも不安な気持ちが解消されるように、丁寧に疑問に応えながら納得していただけるように対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回アンケートを実施し、要望などがあれば反映できるよう周知しています。玄関に意見箱を設置し、出来る限り入居者様、ご家族様からの要望を取り入れ、運営に反映させる努力をしています。	毎月「きらら通信」を発行するとともに、運営推進会議で上がった意見からLINEを導入しています。家族へ行事や日常の様子を写真付きで送信しており、また送られた写真は子から孫へと受け渡され、大変好評です	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の意向調査が実施され、意見を聞いてもらっています。また希望者には施設長と直接面談する機会も設けています	半期ごとに目標設定とフィードバック面談を実施しています。また意向調査のほか職員意見箱を設置しており、面談希望の有無も選択できます。更に業務改善委員会が毎月開催され、設備の老朽化対応や5S活動の推進、物品購入の要望を話し合っています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議や安全衛生委員会を中心に残業や有給の取得状況を確認し、就業環境整備に努めています。3施設の共同決定委員会が集まる際には、職員からの意見を提案しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行われる研修や会議での勉強会の他、正職員全員何らかの外部研修を受けるようにし、自身のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会員となり、同業者と交流する取り組みをしています。職員間交流研修においても他のグループホームとの職員交流を図り、お互いの取り組みについて勉強し合う機会を設けました。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族と話し合い、不安なことや希望を聞かせていただき、どの様にしたらご本人に安心していただけるか提案することで、信頼できる関係作りに努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から出来るだけご本人・ご家族の要望を聞き、不安なく過ごせるケアプラン作成に繋げ、信頼関係を構築しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入時、ご本人の発した言葉の真意を見極め、本当に必要とされるサービスを提供できるプランを作成・実践に繋げています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人を介護される一方の立場におかず、一緒に食事を作ったり、買い物に出掛けるなど暮らしを共にする者同士の関係を築いています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ、ご家族にも行事参加していただいたり、面会等でご本人とご家族と一緒に過ごせる時間を作り、絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係を築いています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊の機会を持ち、ご本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています。	移動スーパーの利用や買い物同行支援を通じ、以前の習慣やつながりを大切にしています。現在の面会に制限はなく、頻度は多い家族で週1回、平均すると月1回程です。面会の期間が空くような場合は、介護計画書の更新時に声をかけるように図っています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度や認知症によりトラブルになりそうなこともあります。利用者同士の関係や性格を把握し、職員が関わることで、入居者様同士の良好な関係作りに努めています。			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス修了から数年経っても、近隣に住むご家族は今でも古新聞を持ってきてくださったり、これまでの関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努める為、日頃の会話や仕草、表情などから、ご本人の思いに添ったケアが実践できるよう心掛けています。	思いや希望を引き出すため、入浴や散歩、花摘みなどのリラックスできる時間を活用し、発言や様子を「申し送りノート」や「気づきシート」に記録し、職員間で共有しています。また、アセスメントは事業所独自の形式を導入し、半年ごとに介護計画書を見直しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴の情報提供をいただいている他、ご本人との会話や面会時にご家族から詳しくこれまでの暮らしぶりを聞くことで、一人ひとりの情報把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中で、一人ひとりの仕草や言葉などから、心身状態の把握に努め、生活のペースや出来ることを個人に合わせられるよう、ユニット会議で情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の課題とケアの在り方をユニット会議で話し合い、生活に活かせるようなプランを提案させて頂き、ご本人・ご家族・担当職員や、必要な関係者と話し合い現状に即した計画を作成しています。	「個別ケアのカンファレンス記録」や「申し送りノート」で職員間の共有を図り、モニタリングは半年ごとに実施しています。利用者と家族が望む暮らしを実現したいとの思いから、家族には介護計画書内の「意向欄」へ考えや思いを手書きで記述してもらっています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、提案事項があれば、その都度提示し職員からの意見を取り入れるなど職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しへと繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様がやりたいと感じたことをどうしたら実現できるかを考え、実現することを喜び合える事業所・職員であるよう取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常を豊かに過ごせるよう、知人からの絵手紙と一緒に鑑賞したり、ご家族や知人の面会など、協力を得られる社会資源との関係を常に築いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族等の希望をもとに、かかりつけ医を決定し、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、月2回の往診の他、常に適切な医療を受けられるように支援しています。	2か所の医院による訪問診療が月2回全利用者に向けにおこなわれ、訪問歯科は希望者のみ活用されています。薬は職員が投薬セットしています。薬剤師の同行は現在ありませんが、より専門的な視点での服薬管理とするためにも来年度から導入予定です	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し、24時間体制で連絡が取れるようになっていて、急ぐ場合などは他事業所の看護師に相談できるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本年度はこれまで入院するケースはありませんでしたが、入院する事態が発生した際は、出来るだけ早期に情報収集し、早めの退院を相談するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針や見取りに関する指針について説明する他、状態の変化に合わせて、ご家族と話し合いを行い、事業所で出来る事と出来ない事を十分に説明しながら、グループホームらしい温かみのあるケアを提供するよう取り組んでいます。	利用者が最期まで穏やかに過ごせるよう、基本的には居室での療養を重視しつつ、グループホームならではの過ごし方を大切に、共有スペースで過ごす時間も確保しており、好きな音楽や家族に囲まれた温かい見送りが実現しています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の訓練やAEDの使用方を学び、利用者の急変や事故発生時に備えて、マニュアル・傷病者カードを作成し、緊急時に誰もが対応できる工夫をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災訓練の計画を立て、様々な想定による防災訓練を行っています。昨年度は職員のみでしたが、本年度は町内の防災訓練に委員や入居者様と参加し、地域の方とお互い協力し合える関係を築けるよう努めています。	地震・火災を想定した訓練を各1回、水害訓練を2回、総計年4回の防災訓練に取り組んでいます。訓練に職員が最低1回は参加できるよう調整するとともに、きらら浜松全体の総合防災訓練にはできる限り全員が参加できるようシフトを組んでいます	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの過ごされてきた人生を大切に、その方の思いを尊重し、誇りやプライバシーが最大限守られるように入居者様の目線で物事を考えた声掛けを行っています。	入居時に「個人情報の取扱いに関する同意書」を取得し、職員は退職時に「守秘義務確約書」を提出しており、個人情報は事務所の鍵付き保管庫で厳重に管理し情報保護に努めています。現場でも、名前を読み上げずに指差して確認するといった配慮が見られます		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、やりたいことや行きたいところ、食べたいものなど、ご本人の思いや希望を聞き、出来るだけ希望に添えるように努めています。自己決定が難しい方も生活歴や質問を使い分けることで、出来る限り希望の表出が出来る工夫をしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中にあっても、食事や入浴、その他日常生活全般に於いて業務優先にならないように心掛け、一人ひとりのペースに合わせて、やりたいことが出来るよう支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように服を選んでもらったり、化粧を希望する方には化粧をしてもらったりしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、季節を感じられるような食事を提供したり、一人ひとりの好みに応じた提供の仕方や食器の工夫や声掛けなどその方の持つ力を活かしながら、入居者様と職員と一緒に準備や調理、片付けをしています。	利用者はエプロンを着用し、調理や盛り付け、後片付けに朗らかに参加しています。嚥下対応で一口大にカットするときは本人に説明しながらおこない、食器や箸も個別に適したものを用意するなど、自立を支える工夫があります		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確認できるよう表を活用しています。一人ひとりの状態や力、習慣に応じて、食事の形態を変えたり、食欲のない方には食べられそうなものを提供したりもします。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態やご本人の力に応じた口腔ケアをしています。義歯は清潔が保てるよう毎日洗浄剤を使用し除菌しています。また、デンタルサポートさんによる定期的な往診により、必要な歯科治療が受けられる体制が築かれています。毎月衛生士の方から、口腔衛生に関する助言をいただき			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向け、声掛けや誘導、介助方法についても常に検討し、羞恥心にも気を付けて支援をしています。	2つの居室に対して1つのトイレが設置され、利用者は「待つ」ことはありません。使用するパッドの種類や大きさは職員が状況を観察しながら「提案事項」として事業所内で検討され、家族と相談の上で経済的負担も考慮しながら変更しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、出来るだけ直ぐに下剤に頼ることなく、水分補給や飲食物の工夫、運動への働きかけ等を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一定の入浴時間はあるものの、入浴のタイミングは声掛けや手法を工夫し、出来るだけご本人の気持ちに添えるようにしています。また、入浴を楽しめるように、音楽が好きな方には音楽をかけたり、入浴剤を使用してリラクセス効果を増したりもしています。	週に2回の入浴を基本とし、希望があれば回数を増やすことも可能です。湯は個毎に入替え、入浴剤を備えるとともにゆず湯等の時節風呂も用意されるほか、好みの音楽を流すためのスマートフォンも各ユニットにあります	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、夜間の就寝時も空調や照明、入床のタイミングはご本人に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作り、一人ひとりが使用している薬の目的や用法や用量について理解するようにしています。また服薬の際には誤薬が無いように、職員同士声を出して名前と服薬内容に間違いが無いように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や面会の際ご家族から生活歴を聞き、その方の持つ力を活かした日々の役割や嗜好品、楽しみ事など、ケース発表会をすることで、担当職員だけでなく、職員が情報共有し、その人に合った支援ができるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、施設の外周散歩などに出かけられるよう努めています。少しずつ以前のように、ドライブや祭り等、個別外出でご本人の行きたいところやご家族との外出を楽しめるように支援しています。	外周散歩へ声掛けをしながら誘い、その様子は「ケース記録」に残し、利用者の健康状態や活動を把握しています。また、年間計画に位置付けてはいませんが、春には花見、秋には紅葉狩りといった季節イベントを企画し、感染症の状況を見ながら実施しています	外出の頻度は体調や身体機能の違いによって左右され、格差が生じることが課題となっているとのことです。まずは個別の外出のねらいは何か(季節を親しむ、購入欲求、足腰の鍛錬等)を整理し、格差と捉えないことを期待します

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことの大切さを理解して、現金を持つことを希望する方には、ご家族とも相談し、少額の現金を所持するようにしています。現金の使用に関しては買い物の際など、好きなものを選んでもらい、後に立替金としてご家族に請求しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間帯にもよりますが、希望があれば、職員がお手伝いして電話を掛ける事が出来ます。年賀状など、手紙のやり取りは職員が手伝うこともあります。出来るだけご本人に書いていただいています。携帯電話を持っている方もおり、居室にてお話されることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋でゆったりとしたリビングには自然の光が入り、常に季節を感じる中庭を眺めることが出来るようになっています。心地よく季節を感じてもらうように花を飾ったり、掲示物にも工夫を凝らしています。	自然の光が差し込み、テーブルには庭の花が微笑むとともに、中庭の景色を愛でながら季節を感じることが叶う共用空間です。日中の清掃は利用者と職員が協力しておこなうほか、清潔を高める為に専従の用務員が配置されてもいます	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも十分な広さのある廊下やクリエイティブスペースには藤椅子などが置かれ独りになれたり、日の当たる廊下では気の合った利用者同士で日向ぼっこをしながら談笑したりと思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを活かした配置を考えたり、女性の方には洋服を選び易いよう見えるところに並べる等、ご本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。	好みの洋服を衣装ハンガーに並べて選ぶ楽しみを続ける人もおり、ソファやタンス、炬燵や仏壇、思い出の写真のほか、芸妓だった利用者は三味線を持ち込み、また書道師範は書を飾っています。仏壇の水やお供えの準備を職員が手伝えることもあります	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように、表札や目印をつけたり、手すりや感知照明など安全にも考慮した工夫がされています。	建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように、表札や目印をつけたり、手すりや感知照明など安全にも考慮した工夫がされています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297100253
法人名	社会福祉法人 県民厚生会
事業所名	グループホームきらら浜松 (南ホーム)
所在地	静岡県浜松市中央区楊子町218
自己評価作成日	令和7年1月15日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_922_kani=true&lijvovocd=2297100253-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和7年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南ホームは、介護度の高い方が多いですが、一人一人の状態に合わせ、歩行したり立ち上がりや四肢の曲げ伸ばし等の運動を実施しています。食事時間もかかるため、職員配置を工夫したり、時間帯をずらすなどして対応しています。介護度の軽い方には、家事をすることで生活の中で役割を持って生活していただいています。重度であるからこそ個別の対応ができるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街に溶け込み佇んでいる一方で、全居室から中庭へ出られる開放的な設計となっています。季節の花々や緑が植わる環境の中で「笑顔あふれる暮らしの実現」を理念とし、ここは我が家という思いを大切にしながら、温かみのある生活空間とケアサービスを提供しています。例えば、コーラス経験者にはレクリエーションで披露する場を設け、歩行訓練の一環としてエアロバイクを導入したり、在宅の頃の習慣のままに塗り絵や数独、コーヒーに親しみ、ジャズを聴きながらウイスキーを楽しむなど、利用者一人ひとりの趣味や嗜好を通じて「これまでの生活の継続」が実現しています

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は誰もが見える所に掲示されています。その意義を職員全員で共有し、居室担当者が中心となり、入居者様一人ひとりが笑顔で過ごせるホッとする我が家をめざしています。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度地域貢献活動委員会で開催するイベントに出来るだけ入居者様も参加する機会を設けました。また、地域の一員として敬老会やクリスマスの際に子育て支援や近隣のこども園と交流を行いました。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法の発信は出来ていませんが、きらら祭りの開催や、地域貢献活動を通じて地域の方々へ貢献する姿勢を常に持っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に開催しています。入居者様の普段の様子や行事、事業所として取り組んでいる業務改善などを報告するとともに、事故やヒヤリハットの報告も行い、会議でいただいた意見を活かせるようにしています。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方の運営推進委員会の参加が見送られることが多いため、日頃の疑問や介護保険のことなど、分からない事は随時区役所の担当者様に連絡してアドバイスして頂いています。特に本年度は介護保険の改正により、加算に関する事など質問させていただく機会も多く、例年以上に役所の担当者様との連絡も密に取らせていただきました。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置の他、勉強会や資料配布・動画視聴により身体拘束が及ぼす影響を学んでいます。業務の中で、拘束だと感じたことは上司に報告・相談し、委員会にも報告しています。玄関の施錠は日中に時間を決めて開錠しています。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については委員会設置の他、何度も勉強や話し合いの場を持ち、動画視聴も行うなど、不適切を注意しあえる環境が大事であることを確認しあったり、虐待の芽チェックリストを毎月実施し、職員全員虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めて			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の資料を配布や動画視聴をするなどして、成年後見制度や日常生活自立支援事業について詳しく知る機会を持てるようにしています。詳しく知りたい場合は、DVDの貸し出しもしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の説明を行い、少しでも不安な気持ちが解消されるように、丁寧に疑問に応えながら納得していただけるように対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回アンケートを実施し、要望などがあれば反映できるよう周知しています。玄関に意見箱を設置し、出来る限り入居者様、ご家族様からの要望を取り入れ、運営に反映させる努力をしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回の意向調査が実施され、意見を聞いてもらっています。また希望者には施設長と直接面談する機会も設けています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議や安全衛生委員会を中心に就業や有給の取得状況を確認し、就業環境整備に努めています。3施設の共同決定委員会が集まる際には、職員からの意見を提案しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行われる研修や会議での勉強会の他、正職員全員何らかの外部研修を受けるようにし、自身のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会員となり、同業者と交流する取り組みをしています。職員間交流研修においても他のグループホームとの職員交流を図り、お互いの取り組みについて勉強し合う機会を設けました。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・ご家族と話し合い、不安なことや希望を聞かせていただき、どの様にしたらご本人に安心していただけるか提案することで、信頼できる関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から出来るだけご本人・ご家族の要望を聞き、不安なく過ごせるケアプラン作成に繋げ、信頼関係を構築しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入時、ご本人の発した言葉の真意を見極め、本当に必要とされるサービスを提供できるプランを作成・実践に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人を介護される一方の立場におかず、一緒に食事を作ったり、買い物に出掛けるなど暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ、ご家族にも行事参加していただいたり、面会等でご本人とご家族と一緒に過ごせる時間を作り、絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊の機会を持ち、ご本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度や認知症によりトラブルになりそうなこともありますが、利用者同士の関係や性格を把握し、職員が関わることで、入居者様同士の良好な関係作りに努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス修了から数年経っても、近隣に住むご家族は今でも古新聞を持ってきてくださったり、これまでの関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努める為、日頃の会話や仕草、表情などから、ご本人の思いに添ったケアが実践できるよう心掛けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴の情報提供をいただいている他、ご本人との会話や面会時にご家族から詳しくこれまでの暮らしぶりを聞くことで、一人ひとりの情報把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中で、一人ひとりの仕草や言葉などから、心身状態の把握に努め、生活のペースや出来ることを個人に合わせられるよう、ユニット会議で情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の課題とケアの在り方をユニット会議で話し合い、生活に活かせるようなプランを提案させて頂き、ご本人・ご家族・担当職員や、必要な関係者と話し合い現状に即した計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、提案事項があれば、その都度提示し職員からの意見を取り入れるなど職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しへと繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様がやりたいと感じたことをどうしたら実現できるかを考え、実現することを喜び合える事業所・職員であるよう取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常を豊かに過ごせるよう、知人からの絵手紙と一緒に鑑賞したり、ご家族や知人の面会など、協力を得られる社会資源との関係を常に築いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族等の希望をもとに、かかりつけ医を決定し、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、月2回の往診の他、常に適切な医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し、24時間体制で連絡が取れるようになっていて、急ぐ場合などは他事業所の看護師に相談できるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本年度はこれまで入院するケースはありませんでしたが、入院する事態が発生した際は、出来るだけ早期に情報収集し、早めの退院を相談するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針や見取りに関する指針について説明する他、状態の変化に合わせて、ご家族と話し合いを行い、事業所で出来る事と出来ない事を十分に説明しながら、グループホームらしい温かみのあるケアを提供するよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の訓練やAEDの使用法を学び、利用者の急変や事故発生時に備えて、マニュアル・傷病者カードを作成し、緊急時に誰もが対応できる工夫をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間の防災訓練の計画を立て、様々な想定による防災訓練を行っています。昨年度は職員のみでしたが、本年度は町内の防災訓練に委員や入居者様と参加し、地域の方とお互い協力し合える関係を築けるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの過ごされてきた人生を大切に、その方の思いを尊重し、誇りやプライバシーが最大限守られるように入居者様の目線で物事を考えた声掛けを行っています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、やりたいことや行きたいところ、食べたいものなど、ご本人の思いや希望を聞き、出来るだけ希望に添えるように努めています。自己決定が難しい方も生活歴や質問を使い分けることで、出来る限り希望の表出が出来る工夫をしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中にあっても、食事や入浴、その他日常生活全般に於いて業務優先にならないように心掛け、一人ひとりのペースに合わせて、やりたいことが出来るよう支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように服を選んでもらったり、化粧を希望する方には化粧をしてもらったりしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、季節を感じられるような食事を提供したり、一人ひとりの好みに応じた提供の仕方や食器の工夫や声掛けなどその方の持つ力を活かしながら、入居者様と職員と一緒に準備や調理、片付けをしています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確認できるよう表を活用しています。一人ひとりの状態や力、習慣に応じて、食事の形態を変えたり、食欲のない方には食べられそうなものを提供したりもします。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態やご本人の力に応じた口腔ケアをしています。義歯は清潔が保てるよう毎日洗浄剤を使用し除菌しています。また、デンタルサポートさんによる定期的な往診により、必要な歯科治療が受けられる体制が築かれています。毎月衛生士の方から、口腔衛生に関する助言をいただき			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向け、声掛けや誘導、介助方法についても常に検討し、羞恥心にも気を付けて支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、出来るだけ直ぐに下剤に頼ることなく、水分補給や飲食物の工夫、運動への働きかけ等を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一定の入浴時間はあるものの、入浴のタイミングは声掛けや手法を工夫し、出来るだけ本人の気持ちに添えるようにしています。また、入浴を楽しめるように、音楽が好きな方には音楽をかけたり、入浴剤を使用してリラックス効果を増したりもしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、夜間の就寝時も空調や照明、入床のタイミングはご本人に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作り、一人ひとりが使用している薬の目的や用法や用量について理解するようにしています。また服薬の際には誤薬が無いように、職員同士声を出して名前と服薬内容に間違いが無いように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や面会の際ご家族から生活歴を聞き、その方の持つ力を活かした日々の役割や嗜好品、楽しみ事など、ケース発表会をすることで、担当職員だけでなく、職員が情報共有し、その人に合った支援ができるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、施設の外周散歩などに出かけられるよう努めています。少しずつ以前のように、ドライブや祭り等、個別外出でご本人の行きたいところやご家族との外出を楽しめるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことの大切さを理解して、現金を持つことを希望する方には、ご家族とも相談し、少額の現金を所持するようにしています。現金の使用に関しては買い物の際など、好きなものを選んでもらい、後に立替金としてご家族に請求しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間帯にもよりますが、希望があれば、職員がお手伝いして電話を掛ける事が出来ます。年賀状など、手紙のやり取りは職員が手伝えることもありますが、出来るだけご本人に書いていただいています。携帯電話を持っている方もおり、居室にてお話されることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋でゆったりとしたリビングには自然の光が入り、常に季節を感じる中庭を眺めることが出来るようになっています。心地よく季節を感じてもらうように花を飾ったり、掲示物にも工夫を凝らしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも十分な広さのある廊下やクリエイティブスペースには籐椅子などが置かれ独りになれたり、日の当たる廊下では気の合った利用者同士で日向ぼっこをしながら談笑したりと思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを活かした配置を考えたり、女性の方には洋服を選びやすいように見えるところに並べる等、ご本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように、表札や目印をつけたり、手すりや感知照明など安全にも考慮した工夫がされています。	建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように、表札や目印をつけたり、手すりや感知照明など安全にも考慮した工夫がされています。		